

# 「予防教育」の実際と可能性

山崎 勝之

鳴門教育大学予防教育科学センター所長

## 第7回——予防教育の実際③ ズバリ! いじめ予防教育

### 1 諦観「いじめは無くならない」に挑戦する

今の学校教育では、確かに「いじめ」は無くならない。筆者はかねがねそう言ってきた。その理由は3つある。まず、いじめ加害や傍観に至る個人の特性がどのように発達するのか、その発達の視点をもって個人の特性に踏み込んだ教育ができていない。次に、人の心の営み（判断や行動など）の成り立ちを、教員の経験や素人判断でとらえている。そして最後に、いじめ問題の解決に至るには相当な労力と時間が必要であることを知らない、万一知っていても、そうするだけの覚悟がない。

本連載で紹介してきた予防教育は、この3つの問題のすべてを解消して開発されてきたことは紹介済みである。つまり、発達の視点を十分に持ち、無意識から意識まですべての心の領域を考慮に入れ、最新の科学的知見から心的営みの成り立ちに迫り、そして十分な時間を費やせ

る教育とした。

いじめ防止対策推進法が施行されて早や1年が経つ。残念ながら事態の改善は見られない。いじめは相変わらず多発し、自死に至る被害も止まない。法律や規則の制定はたやすいが、問題は実際の教育の中身だ。現行のやり方の多くは、何らかの抑止力の行使である。この学校ではいじめはさせない、先生が見ている限りいじめは許さない、という抑止力だ。時がたてば、また所が変われば、いじめはふたたび芽吹く。本当の教育は、どこに行っても、どんな時でも、いじめ加害をしない、傍観者にならない子どもを育てることではないのか。そのことを可能にするのは、如何に困難であろうと、個人の特性に踏み込んだ教育を行うことであり、その教育を目指しているのが予防教育であった。

抑止力の行使である。この学校ではいじめはさせない、先生が見ている限りいじめは許さない、という抑止力だ。時がたてば、また所が変われば、いじめはふたたび芽吹く。本当の教育は、どこに行っても、どんな時でも、いじめ加害をしない、傍観者にならない子どもを育てることではないのか。そのことを可能にするのは、如何に困難であろうと、個人の特性に踏み込んだ教育を行うことであり、その教育を目指しているのが予防教育であった。

いじめ予防教育が目指すもの

2

心理的又は物理的な行為であった、その行為の対象となる者が心身の苦痛を感じるもの」となる。この行為には、インターネットを通じたものを含むのは当然である。いじめ防止対策推進法での定義は拡散して、いじめ以外の行為も含まれてしまう。教育的配慮とも言えるが、実際に教育対象を明確にしなければ、教育内容を科学的に構築することはできない。

いじめ予防教育は、予防教育の中でもオプショナル教育に属する。もう1つのベース総合教育にしても、オプショナル教育にしても、予防教育の理論的な基盤は共通であり、無意識領域にある情動、そこからの感情をたっぷりと喚起し、学習目標としての心の要素（思考、認知、行動など）を育成する教育であった。

予防教育内の各教育は、学習目標としてどのような心の要素を設定するかで大きな違いが出る。いじめ予防教育では、被害者の困窮状況に気づき、理解し、共感・同情し、実際

に援助行動に至る特性を育成することになる。いじめ加害者や傍観者の持つ諸々の問題を科学データより導き出して目標を設定する。とりわけ、クラス内では人数が多くなる傍観者への教育は重視される。その目標をここで紹介する紙幅はないが、現在書籍を準備中で、至急知りたい方は予防教育科学センターに問い合わせていただきたい。

### 3 教育の実際 最後のライブ版

現在、いじめ予防教育は小学校3・4年生共通版が完成されている（今後、上の学年で開発予定）。全8時間の教育である（7時間、4時間版あり）。過去2回の連載では実際の教育をライブ版で届けたが、ここでは、1授業分を対象に活動クライマックスのみをライブ版にして、ほかはポイントのみの紹介とした。

9ステップで進む授業の型は予防教育共通である（本誌本年7月号参照）。いくつかピックアップアップして紹

介しよう（最終揭示、写真1参照）。

① アニメ・ストーリー ハートちゃんに誘われ、悪魔に光を奪われ闇の世界と化した心の世界に光を取り戻す旅に出た、あかりとひかる。毎時間、ユニークな悪魔が次々飛び出し（イラスト1）、教育の目標にかかわる挑戦状をたたきつける。その挑戦状にに応じていく授業になる。他の教育同様、音楽満載でユーモアたっぷりのアニメで、子どもたちを強く引きつける。

② 活動クライマックス（ライブ版） 7時間目をライブ版でお送り



写真1. 授業終了時点で黒板に張り出された掲示物

するが、その前に活動助走の内容を紹介しておく必要がある。7時間目の目標は「援助行動を選択し、実行することができる」である。いじめを止める3つの援助行動（いじめている子、いじめられている子、見ていだけの子へ）を復習する。次に、2つの場面（持ち物をゴミ箱に捨てられる、仲間はずれにされる）がプリント（お助け行動シート、シート1）で用意され、各場面につき「いじめている子へ」、「いじめられている子へ」、「見ていだけの子へ」のお助け行動が求められる。合計6枚の



イラスト1. 悪魔「にゃんご様」登場（アニメ）

シートが各グループのメンバーに無作為に配られ、記載されているシナリオの最後のセリフを考える。

さて、活動クライマックスに入る。「どきどき、お助け劇場!」。割れんばかりの拍手。ルール説明が終わり、スクリーンに突如場面が出る。続いて、誰へのお助け行動なのかの指示スライド。「5、4、3、2、1、ゴー」。電子音に乗ってスライド上に数字のカウントダウン。終わるやいなや、各グループのチャレンジ希望者がチャレンジカードを



シート1. お助け行動シート例

持って「はいっ！」と立ち上がる。すかさずグループが当てられ、A役とB役の2人が準備。スクリーンにいじめられている子が登場し、つらい気持ちを吐露。「ロールプレイ、スタート」。児童2人は、身振り手振りを交えてリアルに演じる。ロールプレイのやり方は練習済みだ。他の児童からの「できたぞ拍手」を得て、2人は授業者とじゃんけん。勝った人数によりポイントゲット。3問まで続いて、「チャレンジ劇場!」。またまた拍手。今度はまだ見ぬ新規な場面だ。尻込みしそうな雰囲気をかき消すように、「ドリームポイントチャンス!」。拍手。なんと、発表ができればドリームポイントチャンスに挑戦できるという。なんだろうという疑問よりも好奇心が勝つ。スライドが出て、カウントダウン、ロールプレイ、できたぞ拍手。新規な場面なのに迫真の演技。やれるじゃないか。さあ、ドリームチャンスだ。スクリーンにルーレットが回り出した。好きなところで

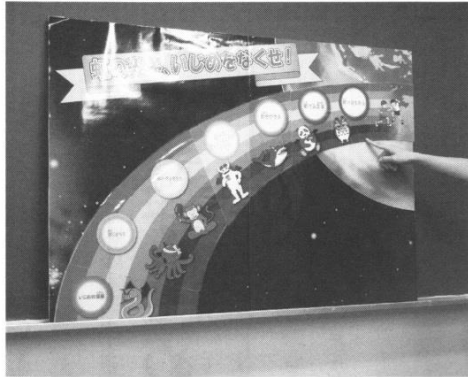


写真2. 授業進行ディスプレイ

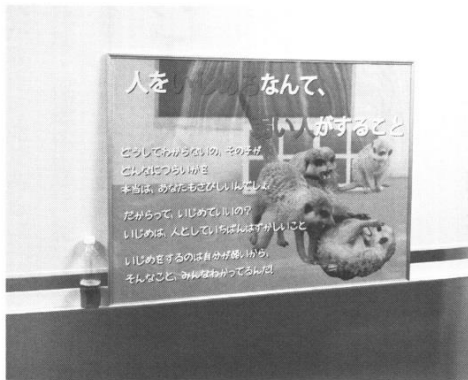


写真3. いじめ予防ポスターの1枚 (B1サイズ)



写真4. いじめ予防ソングのCDジャケット

ループがストップコール。コールとともにルーレットがゆっくり止まる。針は3を指し、3ポイントゲット。やったー顔のグループメンバー。迫力たっぷりの動きと音響に、自ら操作するルーレットはラสบegasのカジノ顔負けか。いろいろないじめ場面が出て、いろんな立ち場の子どもたちに援助行動の練習。これだけ前向きに練習すれば、本番でも使えるだろう。興奮の渦も、終結アニメ、シェアリング、授業進行ディスプレイ(写真2)、まとめの言葉と、情熱たっ

ぷりの音楽に抱かれ鎮まり、胸に目標が刻み込まれる。

**4 おまけの方法もどうぞ**

いじめ予防教育と同時に、また独立して利用するいじめ予防アイテム、手法がある。

まず、いじめ予防ポスター(写真3)。大判のフルカラーパネルが4枚ほどあり、いじめ予防に効力ありのメッセージが写真を背に浮かび上がる。期間を置いて1枚ずつ貼り替えて、思いやりを育成する図書が選定

され、読ませる工夫とともに頻度高く図書は入れ替えられ、教室に設置される。そして、オリジナルのいじめ予防ソングCD(写真4)。エビデンスをもつて作詞し、プロによる作曲で心揺さぶる出来映えである(希望者には、予防教育科学センターより無料で送付される)。

これで、いじめ予防教育は揃った。後は、学校が実施するか、しなやかな問題だ。1時間ぐらいで実施を希望する学校は、その時点で「いじめ予防」の舞台から下りている。